

M-6-1-17

資料名 北鮮三港比較

出所 日滿實業協會

作成年 19351015

寄贈者 編者

受入

注記 20P 22×15cm

昭和十年十月

北 鮮 三 港 比 較

日 滿 實 業 協 會



寄贈  
日滿實業協會  
午年 月 日

## 北 鮮 三 港 比 較

東京市産業局雄基出張所

### 一、三 港 の 概 要

#### 雄 基 港

圖們江を距る西方僅かに十二哩、ウラヂオ港迄一〇三哩、日、滿、蘇三國の國境に近く海陸交通の要路に當り古くより北鮮に於ける不凍港として船舶の避難所或は漁船の碇泊地となりたる處、日露戦後新潟縣漁民の來航は之れが發展の起因をなし、大正元年朝鮮郵船會社の船路開始と共に商港として稍々世人に知らるゝに至り、大正十年六月開港場に指定、更に昭和八年十月京圖線開通せらるゝや急速の發展を遂げ且つ拉賓、圖寧兩線の開通を見てより一層の活氣を呈し其商勢圏内は北鮮、間島琿春は勿論遠く東北滿蒙方面に迄及び將來は羅津港と共に滿蒙奧地の物資を吞吐するの重要門戸となり進展を期待せらる。

#### 羅 津 港

古くより北鮮唯一の大港灣として識者間に喧傳せられたる處、滿洲事變後京圖線の急速敷設となり

其の終端港としての決定を見るや一般の注目する處となり、一寒村たりし地も近々一箇年間に萬を超ゆるの都市を現出せる進展振りを示し、引續き活氣を呈しつゝあり。一方滿鐵の港灣並に築港施設は着々進捗し本年十一月には早くも一部埠頭の使用となり、加之雄羅間鐵道の開通ありて完全に船車の連絡を見、茲に終端港としての使命遂行の序に着く可く、斯くして將來は雄基、清津を兩袖として東北滿洲、蒙古並歐亞聯絡の一大要路となり、日本海に於けるの大連港として大活躍を期待せらる。

清 津 港

相當古くより北鮮第一の貿易港として活躍せる處なるも羅津伸張後の將來に於ては之に比し一鑄を輸する處あらむ。但し他面工業地帯としての輪城平野を抱擁せるを以て相當の進展は期待せらる。

二、三 港 比 較

事 項	雄 基	羅 津	清 津
一、地 形	東、北、西に山を負ひ灣内奥行四、五軒、幅は灣口にて四軒奥にて一〇軒、漏斗狀を爲し灣口東南に開く	東、北、西連山に圍まれ灣入深く南方灣口に大草、小草等の島嶼並淺瀬ありて自然の防波堤を爲し東風及南風を防ぐ灣内奥行十軒、幅三軒	東北山系に抱擁せらるゝ處にして灣入極めて淺し

二、風雨及風速	多風なること及風力強きこと著名なり、最も多き風向は偏北風にして十二月―三月迄は月の中約十日は十五米突以上の烈風吹き烈風以上の日數年五〇日を算す(大連は十七日)	信すべき調査なきも大體雄基と大差なし	東を主風とするも冬は北西夏は偏東風を常とす、最大風速は東三八、八米なるも二十米を超えること稀なり一〇米以上の強風は主として北、西より東の間に在り十一月より三月迄は北、西風吹き荒れども夏は概して靜穩なり
三、水深	海底の傾斜緩にして港内水深は三一―一〇尋深度中庸なるを以て船舶の錨泊に適す	海底傾斜稍々雄基に似たるものあり灣中央部一〇―一四尋、灣口附近一六―一七尋と稱し船舶の錨泊には深きに失するにあらずやと思惟す	海底傾斜急にして岸より三〇〇米にして一三米以上の水深となる、稍々水深きに過ぎ船舶錨泊上不利なり
四、干満の差	最大干満差一、八八尺平均朔望干満差一、三六尺	詳かならざるも平均朔望干満差二尺内外ならん	大潮時最大三、九一尺平均朔望干満差二、〇尺
五、潮流	緩漫にして灣内には著しき潮流を見ず	同上	微弱にして毎秒一、〇尺を出でず
六、海底	内港は主として泥砂	同上	主として砂土なるも岩石を混ふる處あり
七、凍 結	海岸近くは分薄の結氷することあるも冬の卓越風たる偏北風により港外に吹流さるるを以て航洋船の航行並荷役等の妨げとなることなし但し偏北風の當らざる舢舨溜り風下にありては舢舨運行の自由を妨げる事往々ありと云ふ	結氷程度は雄基と大差なく船舶の航行荷役等に何等支障なし	海岸近くは結氷することあるも船舶の出入並荷役等の支障を來すことなし

八、氣候 濃霧	口、氣溫	ハ、降雪	ニ、降雨	九、灣内並 港内面積
五月上旬より八月上旬に至る、時に咫尺を辨ぜざることありて船舶の航行上積至難の時あるも特に支障を來たすことなし	平均温度攝氏六、二度を示し一月最も寒にして八月最も暑きも零下十五六度を降り攝氏二十度を越ゆること稀なり	十月初旬より五月上旬に至る間に於て降雪を見ることあるも回数少なく積雪概して少量なり	内地に比し非常に少なく梅雨は約一ヶ月遅れなるも雨期らしきものなく年平均七百糧内外なり	灣内 三二七萬坪 港内總面積 一八九萬坪 (瀧水湖を除く) 内港 四〇萬坪 (〃) 瀧水湖三十五萬坪なるを以て同湖浚渫の上は内港約九十萬坪
同上	雄基に大差なし	一ヶ年約三、四回の降雪あるに止まり積雪殆んどなし	同上	灣内 九五〇萬坪 港内 (小草島以内) 約四〇〇萬坪
同上	各月平均位最高攝氏二十一度強最低零下七度強	十一月中旬より翌年三月下旬に及ぶも展望を妨げらるゝ如きは一冬季四五回にて概して短時間なり	同上	灣内 二二〇萬坪 港内 三六三萬坪 (防波堤内)

一〇、港灣並  
税關施設

本税關倚り防波堤構内(將來漁港豫定)は單に船繋留所並荷揚場として使用に足るのみなるも對岸瀧水洞税關構内岸壁は現在四五五米、水深八米の完成を見三千噸級四隻を繋留し得べく尙目下工事中にして竣成近きにある。隣接岸壁並接續五萬坪埋立工事其他豫定計畫完成の曉は實に約二、六〇〇米の岸壁線を有する事となり(大連は約三千米)其他灣口倚り防波堤(四五〇米)の築堤を見れば相當大規模の商港を構成し得現税關上屋瀧水洞一棟六〇〇坪本關構内一棟六五三坪、同隣接鐵道上屋(引込線構内)一棟四九坪、私設保税工場(露天にして木材加工を爲す)七ヶ所計一、〇三二坪、本年七月一日よりは滿洲國關稅關の進出を見(雄基辦公處と稱し税關長以下四名)本港經由若くは本港よりの滿洲國行貨物に對しては日滿兩税關共同の許に通關事務を掌理しつゝあり

日滿連絡東部終端港としての羅津港灣施設は目下滿鐵に於て所謂十五ヶ年計畫—工費七千五百萬圓貨物九百萬噸吞吐を目標とす—の内第一期工事(昭和十三年三月末完成豫定)にして長三〇〇米幅一二四米埠頭二基、長五〇〇米、幅八三米埠頭一基岸壁水深九米、五三萬噸吞吐と稱す)の完成に向ひ鋭意工を急ぎつゝあり、既に本年十一月には第一埠頭内面倚り左側の竣工を見るべく斯くして定期船の岸壁使用となり、加之同時期雄羅間鐵道の開通あるを以て完全に船車連絡し且他面開港場たるの指定を得て茲に初めて終端港として重大使命を全ふするに至るべし

税關施設  
本年十月頃迄には開港場の指定ある筈なるも目下は未開港場なるを以て單に對内地移出入貨物の内消費税(或は移入税等)を要する清涼飲料水、麥酒、綿織物等の特殊貨物に對してのみ事務掌理をなす爲め昭和九年七月二十一日間依洞に雄基支署出張所設置せらるゝ、現在上屋として間依洞國際運輸倉庫一棟四十二坪の内二十二坪を使用す、第一埠頭使用の曉は同埠頭入口附近に於て税關、滿鐵、

港口に六百米の防波堤を以て波浪を防ぎ岸壁線九一五米、水深七・六米—八・八米あり、三千噸—四千噸級四隻、六千噸級三隻の岸壁荷役可能なり  
税關上屋五棟三、四五〇坪保税倉庫一棟三四五坪、八本年七月一日より滿洲國關稅關清津辦公處(處長以下二十三名)設置せられ日滿共同事務掌理開始せり

	二、荷役 状態	三、吞吐能力	三、開港 年月日	一四、主なる 品 移輸出 移輸入
定期客船は凡て沖掛のみにして船客は小蒸氣船連絡をなし貨物は駁取するも大量貨物積載船は凡て瀧水洞岸壁作業をなす	六十萬噸	大正十年六月	輸移出品 大豆、石炭、木材、魚油、魚ノ粕 輸移入品 綿織物、粟、小麥粉、米、建築材料、食料品、雜貨	定期客船は凡て沖掛のみにして船客は小蒸氣船連絡をなし貨物は駁取するも大量貨物積載船は凡て瀧水洞岸壁作業をなす
上署、港灣事務所、國際運輸支社の五共用事務所用建築物（一四五米六一四〇米坪數五、八二四平方米）の建設を見る豫定なるを以て税關も同所に移轉し右建築物内の一部約三、〇二四平方米に税關上屋設置の豫定なり 尙同時に滿洲國圖們稅關羅津辦公處設置せらるゝ筈なり （處長以下二九名の豫定）	目下貨客船共沖作業をなす但し本年十一月以降第一埠頭（三百米突堤）の内面左側岸壁使用し得る見込	昭和十年十一月の見込	移出 水産物、大豆 移入 セメント、鐵材及機械類、米、金屬器具、石炭、木材	目下貨客船共沖作業をなす但し本年十一月以降第一埠頭（三百米突堤）の内面左側岸壁使用し得る見込
岸壁完備せるを凡て埠頭作業を爲す	三百萬噸 （但し第一期工事成後）	明治四十一年四月	輸移出 魚油、魚類、綿織物、鐵材、木材 輸移入 鐵材、小麥粉、綿布、絹織物、砂糖	岸壁完備せるを凡て埠頭作業を爲す

一五、輸移 出入額	別紙	同上	同上	一六、北鮮三港 に於ける五 大都市移出入 額比較表
別紙	同上	同上	○東京市産業局 雄基出張所（東京市）所長一、所員一、計二名 掌理事項 市況並經濟事情の調査商取引の紹介斡旋 商品の宣傳 見本市の主催又は参加 ○新潟縣物産紹介所 北鮮出張所（新潟縣）所長（縣吏員）一、計一名 業務 商取引に關する紹介並調査、物産の試買 見本市の開設 商品見本及參考品の展示紹介 意匠圖案の指導 物産の改良及販路の擴張	一七、三港貿易 船定期航路
別紙	同上	○新潟縣滿蒙輸出組合 羅津出張所 所員 一、計一名 業務 買取、委託、輸出及輸出斡旋滿蒙輸出商品の宣傳 輸出市場に於ける經濟事情調査 見本市の開催	同上	同上
同上	なし	なし	なし	なし

一八、内地よりの出張駐在所

○新潟縣滿蒙輸出組合  
雄基出張所(縣補助公共)  
所員は前記新潟縣吏員囑託を受く  
主要事業  
買取、委託輸出及輸出斡旋  
滿蒙輸出商品の宣傳  
輸出入市場に於ける經濟事情調査  
見本市の開催  
○富山縣對岸貿易拓殖振興會  
(富山縣並富山、高岡兩市伏木新湊、東岩瀨各町補助公共)  
所長一、所員一、計二名  
業 務  
富山縣産品の滿鮮へ輸移入に關する調査斡旋及紹介  
滿鮮物資の富山縣へ輸移出に關する調査斡旋及紹介  
滿鮮に於ける各種商品並取引上の調査  
富山縣人の滿鮮移住に關する調査斡旋  
滿鮮渡航者の斡旋  
富山縣及滿鮮事情の紹介  
滿鮮貿易拓殖上の質疑應答  
其の他貿易拓殖上に關する事項

<p>二二、自北鮮三 至内地各 運地貨物</p>	<p>二一、自東京、 新潟其 至北鮮三 運港貨物</p>	<p>二〇、市街地 面積</p>	<p>一九、人口</p>
<p>別紙</p>	<p>別紙</p>	<p>現在 一一八萬坪 都市計畫は約一千萬坪</p>	<p>二四、〇〇〇人 内地人 三、三〇〇人 鮮人 二〇、五〇〇人 外人 三六〇人</p>
<p>同上</p>	<p>同上</p>	<p>昭和十二年三月を以て完成する 面積 九十萬九千坪 滿鐵事業地たる收用地面積 約八〇萬坪(埠頭一切を含む)</p>	<p>二四、五〇〇人 内地人 五、三〇〇人 鮮人 一八、九五〇人 外人 二五〇人</p>
<p>同上</p>	<p>同上</p>	<p>現在 一六五萬坪 都市計畫(輪城平野を含む) 六八八萬八千坪</p>	<p>四一、五〇〇人 内地人 一〇、五〇〇人 鮮人 三〇、四〇〇人 外人 七〇〇人</p>

三、北鮮三港輸出入額

貿易別	輸			入		
	昭和七年同	八年同	九年	昭和七年同	八年同	九年
雄基	三、一五〇	一、五〇〇	五、三三六	二、六八	二、六三	一、四一八
羅津	—	—	—	—	—	—
清津	二、六三六	三、一三八	二、三三七	二、一三九	二、九九五	六、五三四
移	—	—	—	—	—	—
出	—	—	—	—	—	—
移	—	—	—	—	—	—
入	—	—	—	—	—	—

(單位千圓)

四、北鮮三港に於ける五大都市移出入額比較表

地名	移出			移入		
	昭和八年同	九年	昭和八年同	九年	昭和八年同	九年
東京	一、三三	三、〇〇	一、五	三、九〇	—	—
大阪	—	—	—	—	—	—
横濱	—	—	—	—	—	—
神戶	—	—	—	—	—	—
名古屋	—	—	—	—	—	—
移	—	—	—	—	—	—
出	—	—	—	—	—	—
移	—	—	—	—	—	—
入	—	—	—	—	—	—

(單位千圓)

五、三港寄港定期航路

種別	日本方面						航路 (線名)	寄港地	航海度數	船名	使用船舶噸數	貨客船別	經營者	備考
	自營	自營	自營	朝鮮總督府	朝鮮總督府	朝鮮總督府								
航路	大阪—清津	大阪—清津	大阪—清津	雄基—大阪	雄基—大阪	雄基—大阪	雄基—大阪	雄基—大阪	雄基—大阪	雄基—大阪	雄基—大阪	雄基—大阪	雄基—大阪	雄基—大阪
寄港地	雄基、羅津、清津、門司、神戶、大阪	雄基、羅津、清津、門司、神戶、大阪	雄基、羅津、清津、門司、神戶、大阪	雄基、羅津、清津、門司、神戶、大阪	雄基、羅津、清津、門司、神戶、大阪	雄基、羅津、清津、門司、神戶、大阪	雄基、羅津、清津、門司、神戶、大阪	雄基、羅津、清津、門司、神戶、大阪	雄基、羅津、清津、門司、神戶、大阪	雄基、羅津、清津、門司、神戶、大阪	雄基、羅津、清津、門司、神戶、大阪	雄基、羅津、清津、門司、神戶、大阪	雄基、羅津、清津、門司、神戶、大阪	雄基、羅津、清津、門司、神戶、大阪
航海度數	同	右	月九	四隻	月一	二半	二隻	半年	年八	各月	一、五	各月	一、五	各月
船名	慶河丸	武昌丸	貴州丸	京畿丸	春川丸	榮江丸	立神丸	長白山丸	四雲丸	雲南丸	長壽丸	盛京丸	長壽丸	盛京丸
使用船舶噸數	×〇×〇	×〇×〇	×〇×〇	×〇×〇	×〇×〇	×〇×〇	×〇×〇	×〇×〇	×〇×〇	×〇×〇	×〇×〇	×〇×〇	×〇×〇	×〇×〇
貨客船別	客貨	客貨	客貨	客貨	客貨	客貨	客貨	客貨	客貨	客貨	客貨	客貨	客貨	客貨
經營者	大阪商船	大阪商船	大阪商船	朝鮮郵船	朝鮮郵船	朝鮮郵船	朝鮮郵船	朝鮮郵船	朝鮮郵船	朝鮮郵船	朝鮮郵船	朝鮮郵船	朝鮮郵船	朝鮮郵船
備考	航清津より門司直	航清津より門司直	航清津より門司直	航清津より門司直	航清津より門司直	航清津より門司直	航清津より門司直	航清津より門司直	航清津より門司直	航清津より門司直	航清津より門司直	航清津より門司直	航清津より門司直	航清津より門司直



裏日本方面										表日本方面										
命總朝	命總朝	命總朝	命總朝	命總朝	命總朝	命總朝	命總朝	命總朝	命總朝	命總朝	命總朝	命總朝	命總朝	命總朝	命總朝	命總朝	命總朝	命總朝	命總朝	命總朝
令督府	令督府	令督府	令督府	令督府	令督府	令督府	令督府	令督府	令督府	令督府	令督府	令督府	令督府	令督府	令督府	令督府	令督府	令督府	令督府	令督府
朝鮮	朝鮮	朝鮮	朝鮮	朝鮮	朝鮮	朝鮮	朝鮮	朝鮮	朝鮮	朝鮮	朝鮮	朝鮮	朝鮮	朝鮮	朝鮮	朝鮮	朝鮮	朝鮮	朝鮮	朝鮮
北海道	北陸	伏木	清津	敦賀	北鮮	新瀉	北鮮	新瀉	北鮮	新瀉	北鮮	新瀉	北鮮	新瀉	北鮮	新瀉	北鮮	新瀉	北鮮	新瀉
青森、函館、小樽	元山、伏木、新瀉、船川	雄基、清津、城津、西湖津	雄基、清津、元山、興南、城津、伏木、七尾	雄基、清津、元山、興南、城津、伏木、七尾	雄基、清津、元山、興南、城津、伏木、七尾	雄基、清津、元山、興南、城津、伏木、七尾	雄基、清津、元山、興南、城津、伏木、七尾	雄基、清津、元山、興南、城津、伏木、七尾	雄基、清津、元山、興南、城津、伏木、七尾	雄基、清津、元山、興南、城津、伏木、七尾	雄基、清津、元山、興南、城津、伏木、七尾	雄基、清津、元山、興南、城津、伏木、七尾	雄基、清津、元山、興南、城津、伏木、七尾	雄基、清津、元山、興南、城津、伏木、七尾	雄基、清津、元山、興南、城津、伏木、七尾	雄基、清津、元山、興南、城津、伏木、七尾	雄基、清津、元山、興南、城津、伏木、七尾	雄基、清津、元山、興南、城津、伏木、七尾	雄基、清津、元山、興南、城津、伏木、七尾	雄基、清津、元山、興南、城津、伏木、七尾
一月	二月	三月	三月	三月	三月	三月	三月	三月	三月	三月	三月	三月	三月	三月	三月	三月	三月	三月	三月	三月
一年	一年	一年	一年	一年	一年	一年	一年	一年	一年	一年	一年	一年	一年	一年	一年	一年	一年	一年	一年	一年
笠戸丸	北祐丸	北鮮丸	慶安丸	滿洲丸	さいべり丸	新京丸	嘉義丸	平安丸	江蘇丸	慶州丸	漢江丸	神天丸	第二鳥清丸	神天丸	漢江丸	慶州丸	江蘇丸	平安丸	嘉義丸	新京丸
×○	×○	×○	×○	×○	×○	×○	×○	×○	×○	×○	×○	×○	×○	×○	×○	×○	×○	×○	×○	×○
一、九二四	一、四二二	一、四二二	一、四二二	一、四二二	一、四二二	一、四二二	一、四二二	一、四二二	一、四二二	一、四二二	一、四二二	一、四二二	一、四二二	一、四二二	一、四二二	一、四二二	一、四二二	一、四二二	一、四二二	一、四二二
貨	貨	貨	貨	貨	貨	貨	貨	貨	貨	貨	貨	貨	貨	貨	貨	貨	貨	貨	貨	貨
島谷汽船	北陸汽船	朝鮮郵船	汽北船本	朝鮮郵船	汽北船本	朝鮮郵船	汽北船本	朝鮮郵船	汽北船本	朝鮮郵船	汽北船本	朝鮮郵船	汽北船本	朝鮮郵船	汽北船本	朝鮮郵船	汽北船本	朝鮮郵船	汽北船本	朝鮮郵船
當分羅津不寄港	雄基、羅津不寄港	清津より伏木直航、羅津清津不寄港	さいべり丸の浦潮寄港	さいべり丸の浦潮寄港	さいべり丸の浦潮寄港	さいべり丸の浦潮寄港	さいべり丸の浦潮寄港	さいべり丸の浦潮寄港	さいべり丸の浦潮寄港	さいべり丸の浦潮寄港	さいべり丸の浦潮寄港	さいべり丸の浦潮寄港	さいべり丸の浦潮寄港	さいべり丸の浦潮寄港	さいべり丸の浦潮寄港	さいべり丸の浦潮寄港	さいべり丸の浦潮寄港	さいべり丸の浦潮寄港	さいべり丸の浦潮寄港	さいべり丸の浦潮寄港

他	其	面方本日裏
清津羅津雄基 (客船)	自營 大連—北鮮	自營 樺太—北鮮
新興丸(九八噸、國際運輸)每日一往復	雄基、羅津、清津、大連、芝罘	雄基、羅津、清津、大連、芝罘
第一羅津丸(四八噸) 檣木商事	雄基、羅津、清津、大連、芝罘	雄基、羅津、清津、大連、芝罘
第二羅津丸(六六噸)	雄基、羅津、清津、大連、芝罘	雄基、羅津、清津、大連、芝罘
各々每日一回 雄基、清津交互發	雄基、羅津、清津、大連、芝罘	雄基、羅津、清津、大連、芝罘
溫州丸	紅海丸	紅海丸
×○	×○	×○
一、二六四	一、二六四	一、二六四
貨客	貨客	貨客
大連汽船	北日本汽船	北日本汽船

六、自京濱、清水至北鮮三港貨物運賃表 (朝鮮郵船)

品名	仕向地	單位	運賃
從最雜綿	三港	百圓に付	一、一〇
鐵板、鐵管、橋桁、瓦折管、棒鐵、電線、其他鋼鐵材料	三港	一件に付	一、一〇
砂糖、洋紙、醬油、味噌、酢、漬物、ビール、清涼水	三港	又は四〇才	一、五〇
陶磁器、硝子器、樽物、石油	三港	又は四〇才	八、五〇
麥	三港	一、五〇〇斤	九、〇〇
籐寸、古新聞、煉瓦、スレート、土管、土砂、石材、セメント、木材、アスファルト、麻袋、木空箱、ボロ	三港	一、五〇〇斤	九、〇〇
空瓶、葱、繩、吹、石炭、樽材、枕木、硫黃、古アン	三港	一、五〇〇斤	八、六〇
ベラ、玉葱、芋	三港	一、五〇〇斤	七、〇〇

酸類、黃磷、鹽酸加里、 壓搾瓦斯、其他危險品	硝石、揮發油、カーバイト、	一口一噸分	三三、〇〇	一四
危險品	最低運賃	一口一噸分	三三、〇〇	
米	料	一、五〇〇斤	七、五〇	
肥		十貫俵一ヶに付	一一	
		七貫五〇〇匁俵	十貫俵の八、五掛	

自東京 至雄基、清津、大連港貨物運賃表 (大阪商船)

品名	仕向地	雄基	清津	大連
セメント	又、五〇〇斤 又は四〇〇才	八、〇〇	七、〇〇	四、五〇
陶磁器		一〇、五〇	九、五〇	六、〇〇
砂糖		一〇、五〇	九、五〇	四、五〇
麥酒		一〇、五〇	九、五〇	六、〇〇
綿及鋼製		一二、五〇	一一、五〇	七、〇〇
小鐵及鋼製		九、六〇	八、八〇	六、五〇
石粉		一〇、五〇	九、五〇	六、〇〇
地下足		一二、五〇	一一、五〇	六、五〇
ゴム		八、〇〇	七、五〇	三、五〇
麻		八、〇〇	七、五〇	三、五〇

一般雜貨 一二、五〇 一一、五〇 二等七、五〇 六、五〇

自新潟 至北鮮三港貨物運賃表 (日本海汽船 朝鮮郵船) 協定 (但し本表は日本海汽船に依る)

一、元價取(一噸價格千圓以上)	百圓に付	九、〇〇
二、普通雜貨(二百五十圓以上)	一噸に付	七、五〇
三、同		六、五〇
四、同		五、五〇

以下表中記載なき貨物は上記貨率に依る(但し危険品を除く)

織物、吳服、衣類、時計、機械類及崩	一噸四〇才	七、五〇
賣藥、線香、花火、干貝、毛絲、洋服、洋反物、眞綿、書籍、屏風、衛立		六、五〇
洋酒、佛壇、佛具、塗物、化粧品、陶器上等品、皮製品、綠茶、漁網、		六、五〇
麻製品、家具上等品。		六、〇〇
罐詰、玉子、鹽生魚、鯉節、メリヤス、綿糸、毛布、洋傘、蚊帳、洋紙		六、〇〇
筆墨、文房具、インキ、ペンキ、石鹼、足袋、古網、古着、化粧品、玩		五、〇〇
具、馬具、籠、陶器下等品、帳簿、自轉車、電氣器具、マカローニ人形		四、五〇
鷄、飾、身欠、鍊、乾物、砂糖、麥粉、藥草、燒干、切干、串柿、洗石		
鹼、塵紙、鼻緒、下駄、和傘、電工具、椅子下等品、古道具、農具、コ		
ールター、生蝨、番茶、硝子製容器。		
墨表、蓆、蓆、草鞋、麥藁帽子、草履、麥藁、柳行李、籠屏風、升簀、		
升皮、箆類、桶類、重柵、頭板、箒、戸障子、箸、下駄甲、硝子下等製		
品、褥子、網足、木炭、ボロ、古新聞、藪、布海苔、桐木、ブリキ細工		
カイロ灰、土管、空壘、石灰、洗粉、米糖、セメント。		

引 越 荷

自敦賀 至北鮮三港運賃表 (北日本汽船)

一六  
五、二〇

品名	單位	仕向地	雄基、羅津	清津
元 價 取(一噸の價格十圓以上)	百圓に付		一、〇〇〇	〇、九〇〇
雜 貨 一等品(同)	一 噸		七、〇〇〇	六、〇〇〇
雜 貨 二等品(同)	一 噸		五、二〇〇	四、八〇〇
最 低 運 賃	一 噸		一、一〇〇	一、〇〇〇
漁網、綿絲、メリヤス、綿製品、人絹布	一 噸		六、八〇〇	五、八〇〇
ロープ、洋紙、砂糖、小麥粉	一 噸		六、〇〇〇	五、四〇〇
生果、野菜、生鹽干魚、乾物	一 噸		五、四〇〇	四、八〇〇
古新聞紙、麻袋、竹材、石材、瓦、石粉、セメント、藥品、綿、ボロ、木材、安物硝子器、陶器、打綿、切干、ビール、サイダー、清酒、清酢、味噌、醬油、漬物、罐詰	一 噸		五、〇〇〇	四、五〇〇
酸類、揮發油類	最低一噸分		三、〇〇〇	二、五〇〇

參 考

自阪神 至北鮮三港並大連港運賃表 (大阪商船)

品名	單位	仕向地		大連
		雄基、羅津	清津	
柑 橘 類	一、〇〇〇キロ	特約四、四〇〇 一般八、六〇〇	特約三、二〇〇 一般八、〇〇〇	六、六〇 六、六〇
セメン ト	四〇才	二、六〇	六、八〇	三、〇〇 三、〇〇
陶 磁 器	四〇才	八、六〇	八、〇〇	四、六〇 四、六〇
砂 糖	一、五〇〇斤	八、六〇	八、〇〇	三、〇〇 三、〇〇
麥 酒	四〇才	六、八〇	六、一〇	七、三〇 七、三〇
綿 絲 布	四〇才	八、六〇	七、四〇	六、三〇 六、三〇
鐵 及 鋼 製 品	一、〇〇〇キロ	特約六、四〇〇 一般八、六〇〇	特約五、七〇〇 一般八、〇〇〇	六、六〇 六、六〇
小 麥 粉	四〇才	五、三〇	四、八〇	三、〇〇 三、〇〇
石 油	四〇才	一、〇〇〇	九、〇〇	四、〇〇 四、〇〇
地 下 足 袋	四〇才	六、八〇	六、一〇	六、〇〇 六、〇〇
ゴ ム 靴	四〇才	六、八〇	六、一〇	六、〇〇 六、〇〇
麻 袋	二五〇才 二〇〇才 一四〇才	五、五〇 六、八〇 一〇、〇〇	五、五〇 六、一〇 九、〇〇	三、〇〇 三、〇〇 七、三〇
一 般 雜 貨	一、五〇〇斤	一〇、〇〇	九、〇〇	七、三〇 七、三〇

自北鮮三港 至內地各港貨物運賃表 (各社協定)

品名	仕向地	運賃
雜貨一級	釜山	七、五〇
雜貨二級	關門	九、五〇
同三級	若松	八、五〇
從價品	萩博多	七、一〇
最低運賃	神戶	一、〇〇
穀物	大阪	一、一〇
豆	清水	一、一〇
豆	東京	一、一〇
穀	橫濱	一、一〇
海種油	境	一、一〇
鯷魚油	敦	一、一〇
肥田料	境	一、一〇
製材	境	一、一〇
丸太	境	一、一〇
木炭	境	一、一〇
獸鳥生肉	境	一、一〇

備考

- 一、雜貨一級品は一才又は三十七斤半の價格二十圓以上のもの二級品は一才又は三十七斤半の價格五圓以上のもの三級品は一才又は三十七斤半の價格五圓未満のもの
- 二、極價品は一噸の價格一千圓以上のもの
- 三、裏日本行穀物、雜產物運賃は目下協議中

七、自北鮮三港至各地距離 (單位軒)

自東京	新瀉	敦賀	吉林	新京	雄基	羅津	清津
新瀉經由 敦賀經由	八三三	八九五	五七七	六七五	—	—	—
雄基	—	—	—	—	—	—	—
羅津	—	—	—	—	—	—	—
清津	—	—	—	—	—	—	—

大連—新京間 七〇二軒  
大連—吉林間 八四〇軒 (四平街廻り)  
大連—下關間 六一四軒  
雄基—下關間 五〇〇軒

八、自東京、北鮮經由至新京 距離並旅客運賃比較表 (本表運賃は凡て三等に依る)

行程	距離並運賃	距離	行	程	所要日數	運賃	備考
自北鮮經由至新京 (新瀉廻り)	二、〇一七軒	—	東京—新瀉間 (三三二軒) 汽車、新瀉—雄基 (一〇〇軒) 汽車、雄基—新京間 (六七五軒) 汽車	五日	三一、五三	—	雄羅間自動車利用四軒着同時間新京

右 同 (敦賀廻り)	二、一五一〃	東京—敦賀間(四九四籽)汽車、敦賀—雄基(清津、羅津經由)(米原經)(五四八六)汽車、雄基—新京間(六七五籽—二四四二)汽車	五日	三四、二八	右 同
自大連經由 至新 京 (神戸乗船)	二、八九九〃	東京—神戸間(五八九籽)汽車、神戸—大連間(一、六〇九籽)汽船、大連—新京間(七〇一籽、一〇四九〇)汽車	四日	三六、一一	
右 同 (下關乗船)	二、九三五〃	東京—下關間(一、〇九七籽)汽車、下關—大連間(一、一三七)汽船、大連—新京間(七〇一籽、一〇四九〇)汽車	四日	三七、四七	
自、釜山經由 至、新 京	二、八六七〃	東京—下關間(一、〇九七籽)汽車、下關—釜山間(二四〇籽)汽船、釜山—新京間(一、五三〇籽)汽車	三日	三六、七二	

昭和十年十月十日印刷納本  
昭和十年十月十五日發行  
編輯兼發行人 篠崎嘉郎  
東京市豊谷區富田三丁目  
百七十番地ノ十號  
印刷人 島連太郎  
印刷所 三秀會  
東京市神田區  
美土代町十六番地  
發行所 日滿實業協會  
東京市豊谷區丸ノ内三丁目十四番地  
電話 丸ノ内(23)五、〇六一番  
振替貯金口座 東京四五八〇二番

